

樽前山の火山活動解説資料（平成24年3月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

地震活動は消長を繰り返していますが、噴煙活動は概ね静穏に経過しており、地殻変動にも特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

A火口、B噴気孔群及びH亀裂では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要です。

平成19年12月1日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1-①～⑤、図2～6）

A火口の噴煙の高さは火口縁上概ね200m以下、B噴気孔群の噴気の高さは火口上200m以下で、いずれもやや多い状態で経過しています。

23日に第一管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測では、各火口の状況に特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑥⑦、図7）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は概ね山頂火口原内の溶岩ドーム直下のごく浅いところに分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図8～9）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道開発局、国土地理院、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

今回の火山活動解説資料（平成24年4月分）は平成24年5月10日に発表する予定です。

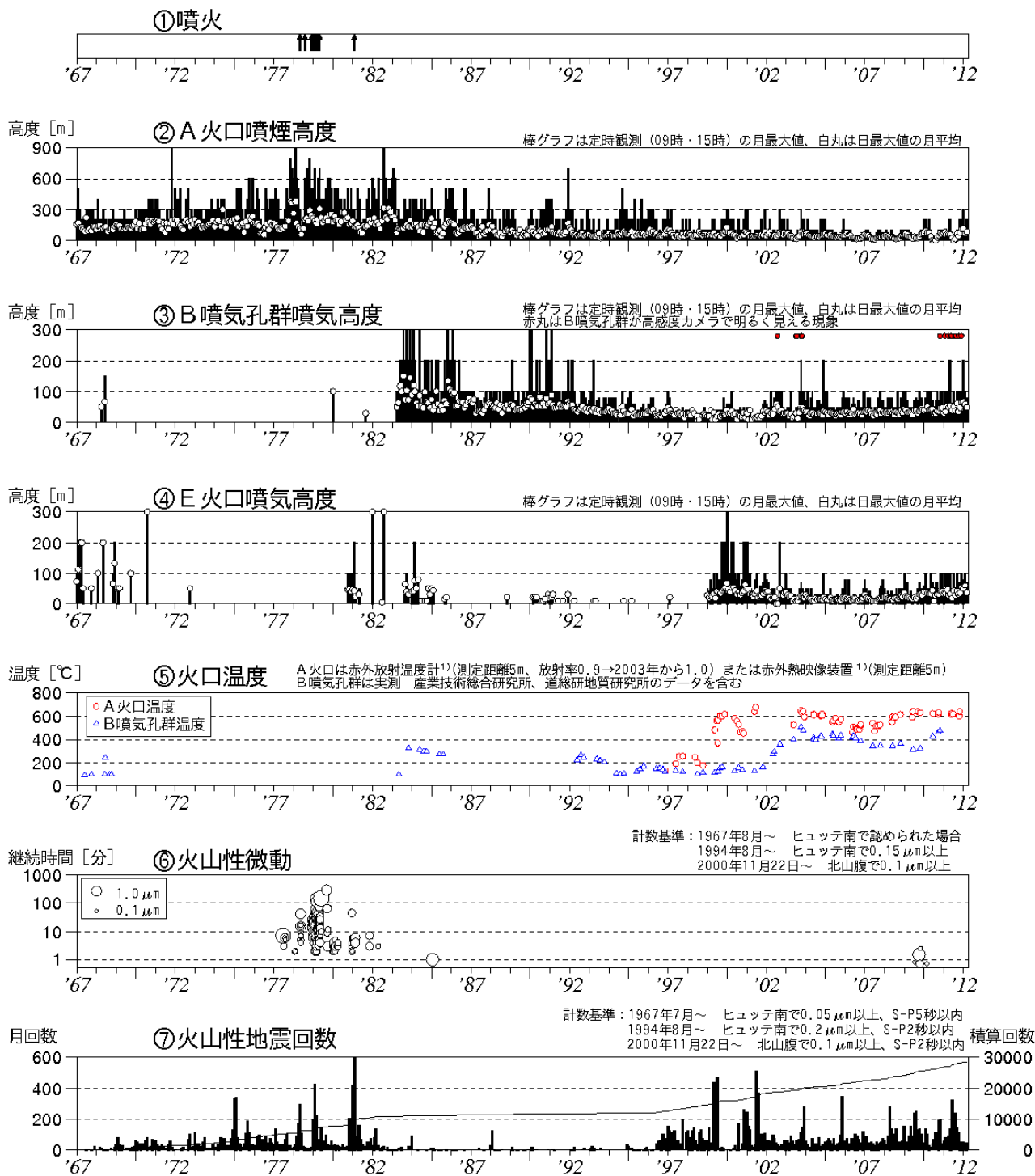


図 1 ※ 樽前山 火山活動経過図 (1967年 1 月～2012年 3 月)

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

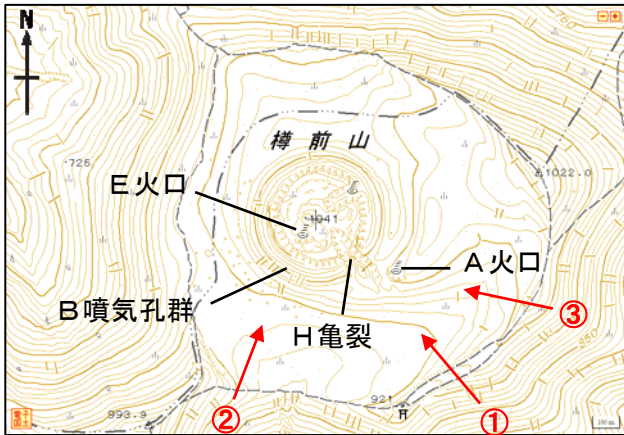
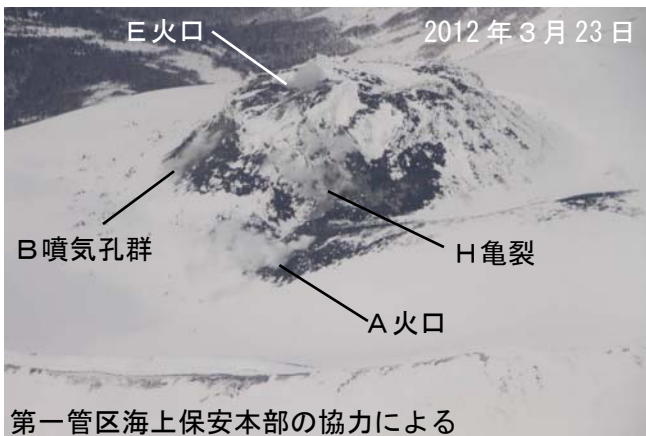


図 2 樽前山 山頂溶岩ドーム周辺図と写真の撮影方向 (矢印)



第一管区海上保安本部の協力による

図 3 樽前山 山頂溶岩ドーム及び風不死岳周辺の状況
南東側上空 (図 2 の①矢印方向) から撮影



第一管区海上保安本部の協力による

図 4 樽前山 A 火口及びH亀裂周辺の状況
東側上空 (図 2 の③矢印方向) から撮影



第一管区海上保安本部の協力による

図 5 樽前山 B 噴気孔群の状況
南西側上空 (図 2 の②矢印方向) から撮影



図 6 樽前山 山頂部の状況 (3月16日、別々川遠望カメラによる)
白丸内はA火口の噴煙、B噴気孔群、E火口及びH亀裂東壁の噴気

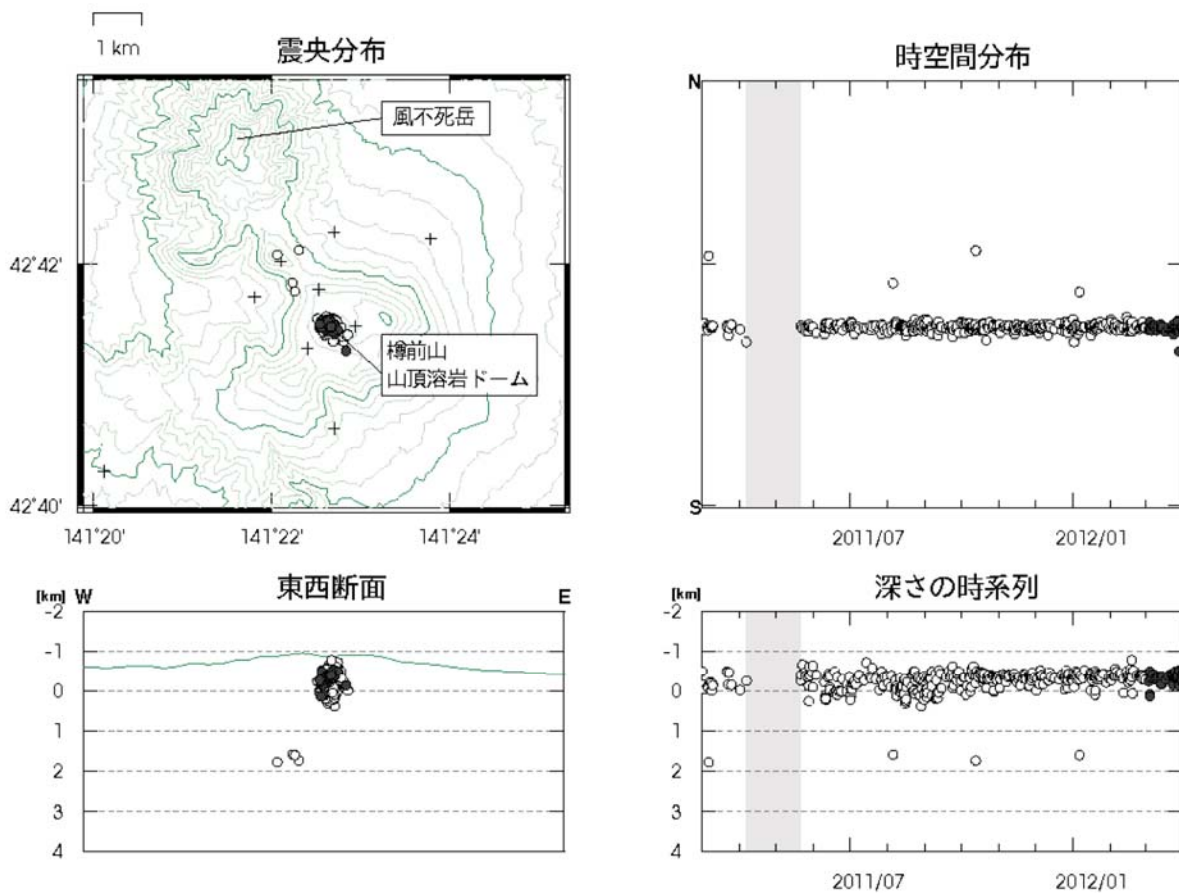


図 7※ 樽前山 火山性地震の震源分布 (2011年3月～2012年3月)
灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
○印：2011年3月～2012年2月の震源
●印：2012年3月の震源
+印：地震観測点

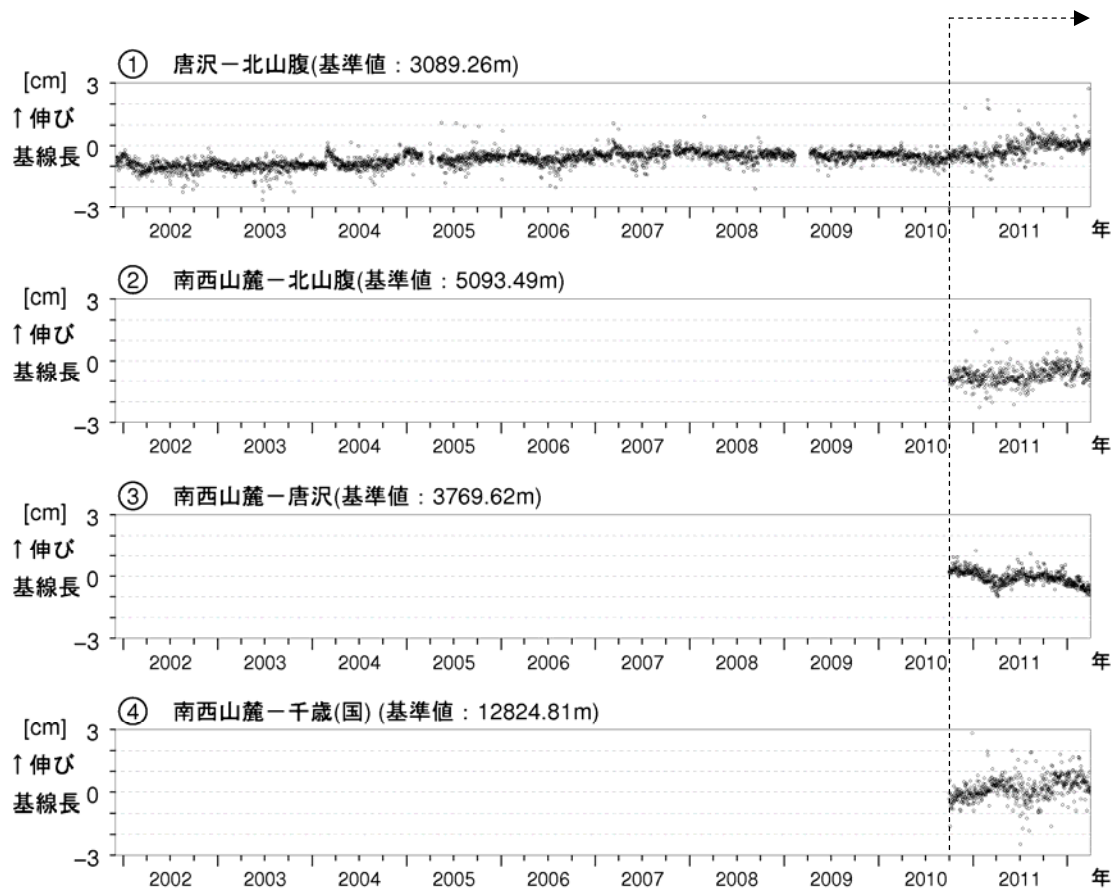


図 8※ 樽前山 GPS連続観測による基線長変化 (2001年12月~2012年3月)
 ・グラフの空白部分は欠測 GPS基線①~④は、図9の①~④に対応
 ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

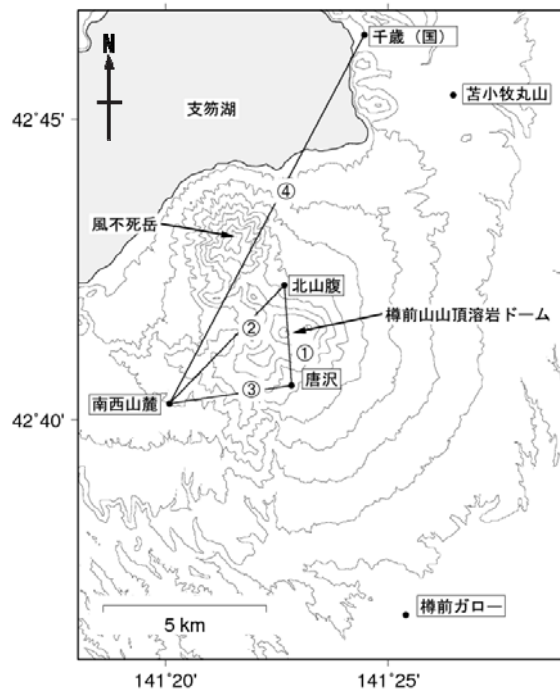


図 9 樽前山 GPS連続観測点配置図
 (国): 国土地理院

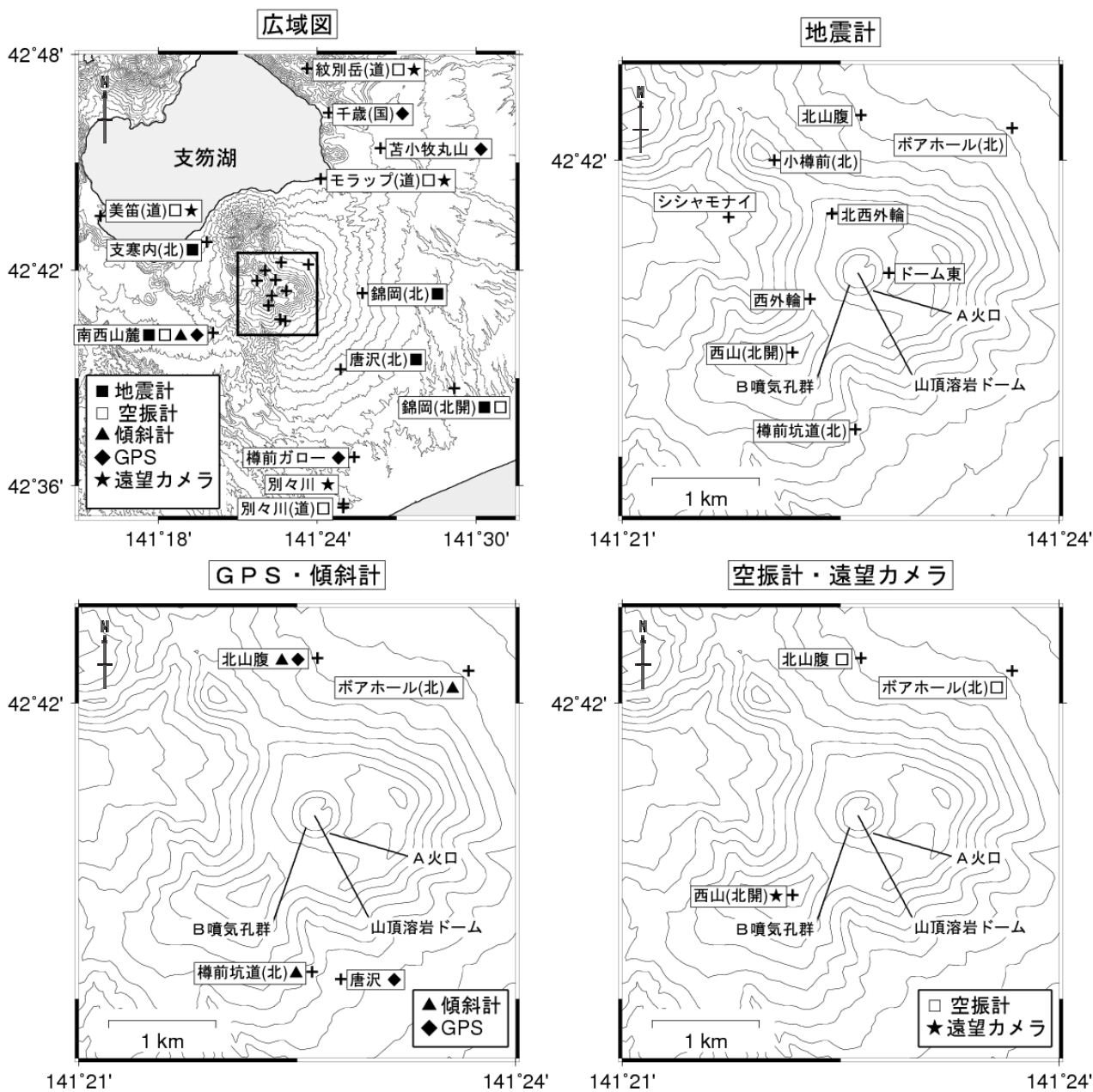


図10 樽前山 観測点配置図

広域図内の口は地震計、GPS・傾斜計、空振計・遠望カメラそれぞれの観測点配置図の範囲を示します

＋は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(北開) : 北海道開発局

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(道) : 北海道